

## 選考採用試験（係長級）

### 小論文試験課題（60分）

#### 注意事項

1. 問題の解答は、別紙の原稿用紙に記入してください。
2. 原稿用紙に、氏名を忘れずに記入してください。

【問】スマート税関構想 2020 について、以下の設問に対して 600 字程度で自由に論じてください。

財務省・税関では本年 6 月に「スマート税関構想 2020」を取りまとめ、20 年後、30 年後も国民の期待に応えられるような「世界最先端の税関」を目指すこととしております。

構想において、今後の中長期ビジョンを以下の 4 つのキーワード毎に整理しております。(各キーワードの詳細は別添資料をご参照ください)

- Solution (利便向上策)
- Multi-Access (多元連携)
- Resilience (強靱化)
- Technology & Talent (高度化と人材育成)

「世界最先端の税関」を目指す上で、いずれも重要ではありますが、その中でもまず、どのキーワードに取り組むべきだとあなたは考えますか。また、何故あなたはそうに考えますか。

## 資料

「スマート税関構想 2020」概要（抜粋）

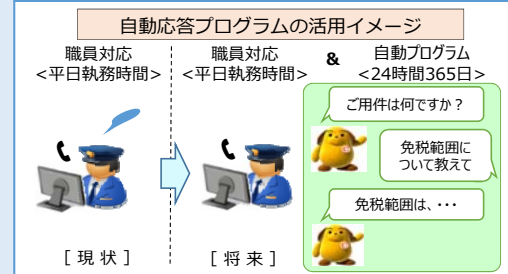


貿易の健全な発展と安全な社会、そして豊かな未来を実現するために**世界最先端の税関**を目指します

### Solution (利便向上策)

貿易関係事業者や旅客等へ、税関手続におけるコンプライアンスや利便性の向上を図るためのソリューションを提供することにより、一層適正かつ迅速な通関を確保することを目指します。

- ① **自動応答プログラム等による24時間365日の質問相談への対応**
- ② **税関検査のオートメーション化による一層の迅速通関の実現**



### Multiple-Access (多元連携)

関係機関、貿易関係事業者等との情報連携を拡大・強化し、水際取締りの強化と貿易円滑化の両立を一層進展させることを目指します。

- ① テロ対策等の観点から**情報収集を強化**するとともに、**貨物や旅客に関する事前情報(PNR等)を一層迅速かつ適切に入手・活用**
- ② 情報収集の更なる効率化のため、**インターネット上の情報を自動収集するウェブクロウリング技術の活用を検討**

ウェブクロウリング技術のイメージ



### Resilience (強靭化)

社会構造の変化や災害リスク等に備え、税関手続における利便性を確保しつつ、税関行政を持続・発展させていくことを目指します。

- ① 海岸線等における効率的・効果的な監視取締りを確保するため、**無人航空機(ドローン等)や衛星技術の活用を検討**
- ② テレワーク環境の強化など、**柔軟な働き方のための環境を整備**

ドローンの活用イメージ

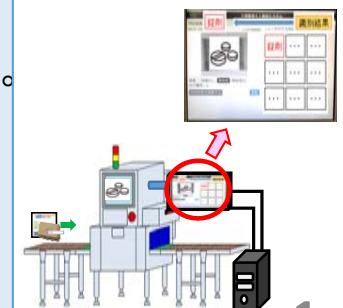


### Technology & Talent (高度化と人材育成)

税関業務にAI等の先端技術を積極的に取り入れ、利便性の創造や一層の効果的・効率的かつ先進的な取締りの実現等、業務の高度化を目指します。また、その活用に併せ人材育成、業務見直し、職場環境の改善を目指します。

- ① 通関審査や事後調査を支援するため**ビッグデータのAI解析を開始**
- ② **AIによるX線検査画像審査支援**
- ③ 定型的業務の自動化・効率化を図るため、**RPAの導入と対象業務を拡大**
- ④ **NQR装置(覚醒剤隠匿探知装置)の調査研究を推進し、早期実配備を目指す**
- ⑤ AI等先端技術導入のための**検討体制の整備及び人材の育成・確保**

AIによるX線検査画像審査支援



# Solution (利便向上策)

貿易関係事業者や旅客等へ、税関手続におけるコンプライアンスや利便性の向上を図るためのソリューションを提供することにより、一層適正かつ迅速な通関を確保することを目指します。

## 主な施策

- 携帯品申告書の電子申告化などにより  
税関関係手続のデジタル化を推進

▼ Eゲート (税関検査場電子申告ゲート)



左：荷物受取時に二次元コードで申告

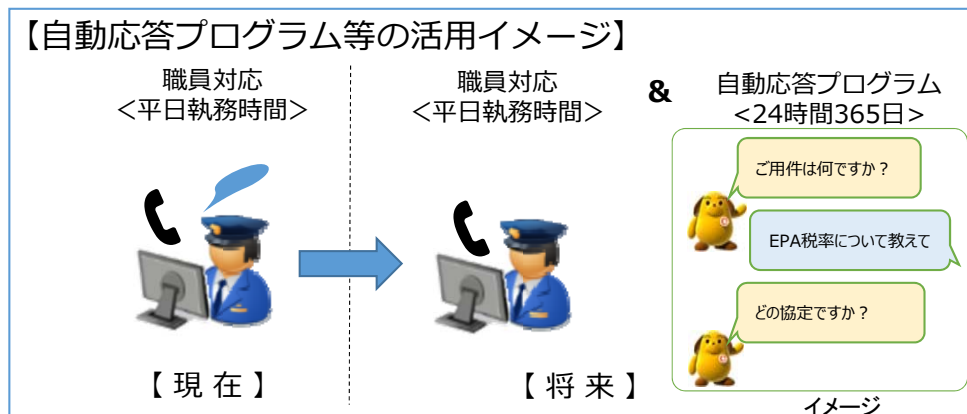


右：専用ゲートが自動開閉

- 関税・消費税等の納税におけるキャッシュレス化への対応として、  
クレジットカード等による納税環境を整備



- 自動応答プログラム等の活用による質問・相談への対応



- 税関検査のオートメーション化による通関の一層の迅速化

# Multiple-Access (多元連携)

関係機関、貿易関係事業者等との情報連携を拡大・強化し、水際取締りの強化と貿易円滑化の両立を一層進展させることを目指します。

## 主な施策

- 関係機関、貿易関係事業者等の民間事業者、大学等研究機関や外国税関等との連携を更に拡大し、協力関係を深化
- テロ対策等の観点から情報収集を強化するとともに、貨物や旅客に関する事前情報を一層迅速かつ適切に入手・活用
- 情報収集の更なる効率化のため、インターネット上の情報を自動収集するウェブクロウリング技術の活用を検討



# Resilience（強靱化）

社会構造の変化や災害リスク等に備え、税関手続における利便性を確保しつつ、税関行政を持続・発展させていくことを目指します。

## 主な施策

- 災害等非常時に備え、新たな技術の動向にも注視し、システムの一層の強靱化 に向け検討
- 被災等に備えて、過去の被災等における経験の共有を継続するとともに、業務継続計画（BCP）を適時に更新
- 海岸線等における効率的・効果的な監視取締りを確保するため、無人航空機（ドローン等）や衛星情報の活用を検討
- 災害による物流への影響等が生じた場合においても、税関による統一的運用及び適正かつ円滑な通関を確保するため、審査・検査の在り方を検討



# T echnology & Talent (高度化と人材育成)

税関業務にAI等の先端技術を積極的に取り入れ、税関手続における新たな利便性の創造や一層の効果的・効率的かつ先進的な取締りの実現等、業務の高度化を目指します。また、先端技術の活用に併せて人材育成、業務そのものの見直し及び職場環境の改善を目指します。

## 主な施策

- 税関業務を効果的かつ効率的に行っていくため、業務への先端技術の活用範囲の検討やプライバシーの確保に留意しつつ、AI等先端技術の積極的な導入・利活用に向けた研究を推進
  - 【現在の取組】ビッグデータ解析技術を活用した通関審査及び事後調査の支援、AIを活用したX線検査画像審査支援、RPAの活用の検討、NQR装置(覚醒剤隠匿探知装置)の調査研究
  - 【各国税関の取組】分散台帳技術(ブロックチェーン)、IoTなどの先端技術の活用・検討
  - 【民間企業の取組】AIを活用した商標の真贋判定等の活用
- AI等先端技術の積極的な活用に向けた検討体制を構築しつつ、AI等先端技術及びデータサイエンス分野に明るい人材を育成



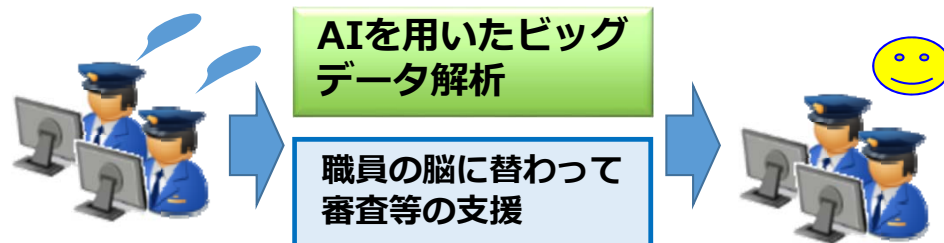
# 税関における先端技術の活用事例①

## 1. 日本税関の主な取組

税関業務の高度化、効率化のため、AI等の先端技術の更なる活用に向けた試行・検証を積極的に推進。

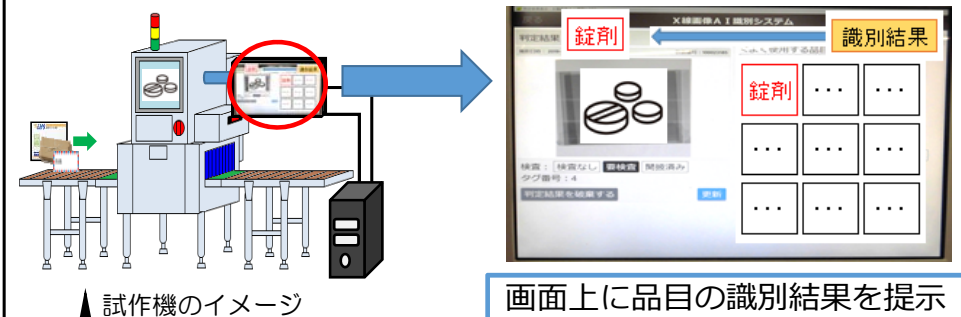
### ビッグデータ解析

- 税関に蓄積された輸入申告等の膨大なデータ（ビッグデータ）を解析
- 審査・検査選定業務及び輸入事後調査立入先選定業務等の支援への活用を検討



### X線画像の解析

- 貨物のX線画像を基にAIが貨物の品目を自動識別してリスク判定を実施



### RPA (Robotic Process Automation)

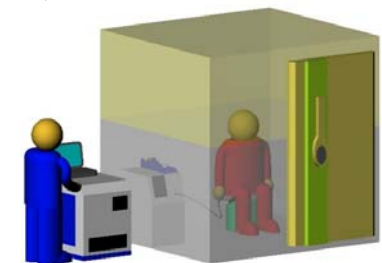
- RPAを用いて、定型的な業務を自動化



### NQR装置 (覚醒剤隠匿探知装置)

- 旅客の体内や身辺に隠匿された覚醒剤を、ラジオ波を利用して探知する検査機器

▼ 検査機器のイメージ



※NQR (Nuclear Quadrupole Resonance 核四極共鳴) 装置：ラジオ波を照射し、共鳴して反射した電波を測定する装置。